



2024年10月期 通期決算について想定されるご質問に対する回答

本資料は、本日開示した2024年10月期 通期決算について想定されるご質問に対する回答を皆様のご参考として開示するものです。

Q1：通期決算について、当初の通期計画に対しては上回っていますが、修正後の通期計画に対しては下振れになっているのは、なぜですか。

A1：7月に実施した価格改定の前後で、客数はこれまでのトレンドと変化はなく、引き続き既存店は好調をキープしております。一方で、直営店の出店ペースが上がったことと、既存店の改装工事を積極的に行ったことにより、一過性の費用が増加しました。特に、改装店舗が想定より多くなり、改装休業によるマイナスが多くなってしまったのが要因です。一過性の費用を除外した場合、修正計画比で営業利益は+145百万円上回る実績となっています（決算説明資料7、8ページ参照）。

Q2：店舗を改装しているようですが、意図を教えてください。また、改装のペースを早めた理由を教えてください。

A2：社内での検証の結果、スープを保温する温度を一定にすることが、スープクオリティを安定させることが分かりました。スープを保温する際に、ガスよりもIHを使用した調理器具の方がスープの保温温度を容易に一定にすることができるとともに、CO2排出量が減少（約10%）することから、IHの導入を進めております。主力ブランドの「町田商店」では、新店の開店時よりIHを導入し、既存店は改装によってIHと最新レイアウトを導入する工事を順次実施しております。IH化によるスープクオリティの安定化と、最新レイアウトによる生産性アップ効果を狙っております。

また、IHを導入するには各店舗の電力使用容量をアップする必要があります。電力使用容量をアップするには、電力会社への申請と許可が必要となりますが、昨今の電力不足から、必ずしも許可が下りるわけではなく、何度も電力会社とやり取りをする必要があります。そのため、従来から、電力会社と電力使用容量のアップの協議をしており、当下期は一挙に許可が下りたため、改装を実施いたしました。（決算説明資料8、9ページ参照）



Q3：2024年7月に価格改定をしているようですが、その理由と改定幅、その後の客足はいかがでしょうか。

A3：2024年7月1日に全ブランド平均で約50円（約5%）アップの改定を実施いたしました。改定後の客数は、昨年対比で100%を超える状況であり客足への影響はございませんでした。

弊社は、運営コスト上昇分を吸収できるように価格改定させていただくという方針のもと経営しております。7月以降で、食材価格（特に、豚肉、米、海苔）、人件費（最低賃金の上昇）、水道光熱費（激変緩和措置の終了、再エネ賦課金の上昇、容量抛出金の創設）の大幅な上昇が見込まれたため、コストの上昇に対して価格改定を実施させていただきました。（決算説明資料10ページ参照）

Q4：来期の出店計画の達成の見通しはいかがでしょうか。

A4：来期の直営店の出店は52店舗を計画しております。すでに、目標の過半の賃貸借契約の締結が完了しておりますので、人材を確保次第、順次オープンさせていく予定です。（決算説明資料20、21ページ参照）

Q5：人材確保の状況は、いかがでしょうか。

A5：人材確保のため様々な施策を実施及び計画しており、徐々に効果は出てきております。採用サイトを更新するとともに、2024年1月に賃上げを実施しております。キャストからの正社員採用では、当期実績で21名が入社しており、来期はさらに拡大を計画しております。また、海外での採用は8名の内定を出し、現地の日本語学校でトレーニングを実施しております。

さらに、退職率（年率）は前年の18.3%から15.4%と、3ポイント近く低下させることができしております。退職率の低減（働きやすさと働きがいの両立）と採用力の強化（応募者数増加と内定率向上）に、引き続き取り組んでまいります。（決算説明資料12ページ参照）

以上